



①プラタナス



②トウカエデ



③クヌギ



④マユミ



⑤ユリノキ

★今、六甲山では木々の葉が美しく色づき、背山を壮大なモザイク画に仕上げています。また、枝には実が熟し、鳥達の訪れをまっています。……秋は、みどりがその最後の乱舞をみせてくれる季節です。

★街のみどりはどうでしょう。神戸7区の街路樹のうち、上位5種はイチョウ、プラタナス、シダレヤナギ、トウカエデ、ユリノキの順で、これらの合計は約1万2千本で、全体<1万7千本>の72%を占めています。

★これは残念なことです。なぜなら、もっといろんな種類の木がいろんな場所に植えられてよいからです。葉の赤く変色するもの（モミジ、マユミ）秋にも花の咲くもの（モクセイ）楽しい実のなるもの（クヌギ、カキ）、これらの木々が街なみにあふれば、街のみどりはもっと魅力的なものになるに違いありません。もちろん一本の街路にただ一種の木を植える必要もないのです。各種の木が植えられてあれば、見た目の斉一感は損なわれるかも知れません。しかし、われわれにとっては、いろいろな種類の木が植えられているほうがずっと楽しいし、他の面——微気象・地質——を考慮して植えれば、そのほうが木々の生育にはずっと良い場合もあるのです。

★いろいろな木々と、その季節ごとの移り変わり。自然のこの豊かさ、素晴らしさを街のみどりに生かさないではありません。

（畠山通之・森田博一）

神戸のアーバンデザイン  
《神戸のみどり》  
神戸市内の街路樹

⑧

⑧〇

水谷 順介 + チーム・UR

●土地を商売の対象、投機の対象として扱うことを止めることが、土地価格高騰対策の基本的路線だと考えます。そのためには、土地自体を売買する行為を回避出来る方法を採用しなければなりません。

●公共用地、公共の利用のための用地そして土地を買収する場合でも、その効果をうけて周辺地価が騰貴しますし、また、その購入資金に金利がかかって、地価に負担がかかります。

●地価が上がるということは、土地代に必要なお金が高くかかって、土地の利用そのもの、すなわち上物に十分なお金がかけられないということになります。そうするとその上物の寿命は短くなる、そこで、それをつぶす、すると、その上物にだけかけたお金を土地価格に換算しての地価に上のせして再び地価が上がる、というメカニズムになります。

●投資のフローの吸収装置としての土地——地価、ということで、土地の上での町自身はまったくその便宜的・犠牲的存在となってしまうています。

●土地の利用と土地の所有を直結することによって、土地売買に頼る安易な利益をカットすることを、住宅政策として進めるいき方が最近いくつか試みられています。

●一つは、緑農住区、農住都市という方式で

す。農地を所有している人たち自身が街として、農業生産基地としての街づくり計画をつくり、その利用計画を前提として、そのなかで自分たちで住宅建設も行い、それを賃貸住宅として都市生活者に利用してもらうといういき方です。

●住宅建設資金として住宅金融公庫などの公的施策がとられ、また、経営上高額になりがちな家賃対象として、利子補給を行うなどのことが行われています。

●農地を土地のまつ不動産業者に売ってきて、その上に乱雑な街が勝手につくられてしまったことへの反省からの行動です。

●もう一つは、市街地のなかでの住宅地再開発——たとえば、工住混合地区での住宅建設に対する方法です。

●それぞれの敷地を所有したままで、自分達の住居自身とそれぞれ私有の賃貸住宅を建設します。そして、その賃貸住宅の建設資金や公的経営のための家賃差額補助（経営採算上公営住宅より高くなる分だけの）を行っていきます。

●公営住宅を、公営で土地取得して公営資金で建設し所有するという方法でなく、民間土地・民間所有の住宅を公的利用していく、といういき方です。

（水谷順介）

# 神戸の古き良きまちなみ (五)

★よき景観を破壊するものに憤り

成功だった神戸の景観に関する百人アンケート――

●アンケートで世論喚起

「神戸のよい景観がどんどんなくなっていく」「いまのうちになんとかしなければ」「ともかくいろんな人に訴えて世論をおこしていこう」――私たちが「神戸の景観に関する百人アンケート」をはじめたきっかけはざっとこんなものであった。データを集めて分析するといったむづかしいことより、ともかく百人の識者に私たちの意図を訴えようという気持ちの方が強かった。だからアンケート項目も、①一番好きな景観は？ ②一番嫌いなところは？ ③残しておきたいところは？ ④いまはもうないが残しておきたかったところは？ ⑤神戸の都市のイメージは？ ⑥景観をよくするには？ ⑦北野町を守るアイデアは？といったきわめて簡単なものであった。

●熱心な回答に感激

郵送アンケートでもあり、最初ほどの程度の返事があるか検討がつかなかった。しかし、最終的には五十三名の人がたちからご返事をいただいた。それも例外なく、きわめて熱心な回答ばかりである。それらを読んでいくと、よい景観を急速に破壊していくものに対する憤りが、私たちの胸に伝わってくる。景観破壊に対する日頃のうっぶんを表現する場をこのアンケートが提供したのではないかと私たちはうめぼれたりもした。病気で安静の床から、回答はできないが、いい企画だからがんばってほしいという激励もあって、私たちを大いに感激させたのである。

●北野町に保全策を

アンケートの結果からひとつ興味あることを述べてお

こう。好きなところは？残しておきたいところは？お

よび残しておきたかったところは？という三つの質問に

対し、いずれも一位を占めたのは、北野町界隈である。

北野町はこの十年の間に、まず、いかがわしいホテルに浸蝕され、つづいてマンション攻勢にさらされた。

「北野町はもうない」といつてもいいほどの変りようである。こう感じた人たちは、北野町を「残しておきたかったところ」に分類されたのであろう。しかし、一方、まだ約三十軒の異人館が現に存在しているし、それらがホテルやマンションに押しつぶされながらも、なおけなげに北野町の魅力を語りかけているのも事実である。「好きなところ」「残しておきたいところ」に分類した人たちは、これらに最後の望みをかけられたのだらう。私たちは「好きなところ」「残したいところ」「残しておきたかったところ」のすべてに北野町が多かったことから、北野町の人気の根強さとともに、いま急速に変ぼうをとげつつある北野町の卒直な投影をよみとることができた。

北野町の保全策を早急に検討すべきときである。

●印刷、自費出版へ

ともかく、このアンケートは私たちの期待を上回って、ずいぶん興味深いものとなった。ぜひ印刷してより多くの人たちにという声が自然におこってきた。私たちは、いろいろな無理を承知で自費出版に踏み切ったのである。こうしてできたのが「都市と景観――よき景観を守り育てよう――」である。ぜひ多くの方々にご読んでいただきたいと思う。そして、この本が、神戸のよき景観を守り育てる一石になればと念じている。

(新建築家技術者集団兵庫支部 垂水 英司)

アンケート報告書は実費でお分けいたします。二二―一六七〇五へ申し込んで下さい。

★北野町三本松付近

北野天神下の小路を、五十米くらい東へ歩くと、右手に雑草の繁った広い空地が展ける。このあたりは、かつて旧ハッサム邸や、アメリカ総領事官邸などが建ちならんで、神戸の異人館としてふさわしい環境をつくっていたところです。

旧ハッサム邸は、除去される予定のところを、関係者の尽力によって、所有者より昭和三十六年に、神戸市へ無償譲渡され、同年、重要文化財に指定告示されて、神戸市の手によって、現在相楽園内に移築されています。建築年代は、明治三十五年で、建築主のハッサム氏は、インド系英国人で、当時、綿花や、米穀雑貨の輸出入に

よって、かなりの成功をおさめていたと伝えられています。相楽園内のこの建物は、今年九月に、外壁の補修とペンキ塗りが行なわれ、美しく、化粧直しされました。旧ハッサム邸の後地を右にみて、更に五十米程東へ歩くと、左手に、緑色の板塀に囲まれた、旧エフ・エー・エコーフォード邸が見えてきます。この建物は大変よく手入れがされており、東側の三本松へ下る道は、北野町の坂道のある風景として、この異人館を背景に、写真などによく撮られています。

旧ハッサム邸後地から、旧エフ・エー・エコーフォード邸に到る一帯は、今尚、かつての北野町のおもかげが残っている数少ない場所の一つになっています。

(新建築家技術者集団兵庫支部 佐古 誠司)



図版説明 ①加リン・バーバク・モラー邸 (旧エフ・エー・エコーフォード邸)

②旧ハッサム邸後地

③異人館



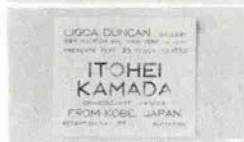
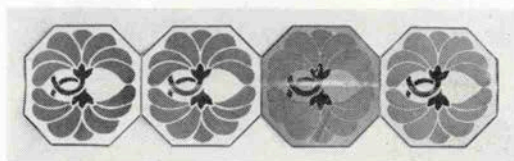
旧エフ・エー・エコーフォード邸 (左手前)



ハッサム邸後地

Air Mail from New York<3>

## 二つのお祭り



▲アジアの月祭りのプログラム

▲リゴア・ダンカン画廊の  
鎌田永平さんの個展の案内状



竹田 洋太郎

＜元神戸新聞説委員＞  
在ニューヨーク

セントラルパークといえばニューヨークに住む人、働く人にとっても自慢の場所ですが、そこで九月二十二日の夕べ「アジアの月祭り」が開かれました。主催はニューヨーク文化局と、ベニハナでもうけたロッキーマウズ氏。不幸にも薄曇りでお月さまは出ず、天候が心配されましたが、もの見だかいは神戸っ子のくせ。お祭りときいてはじっとしておれないので、夕方から家族そろって出かけました。池のほとり、小さな広場と三カ所ばかりでさまざまなショーがあるのですが、やはり食欲をさそう香りにひかれていったのがウルマンモール。ベニハナが例によってハデなジュエスチャーで鉄板焼きを焼き、中国、韓国、タイ、フィリピンなど焼きそばやブルコキの煙がただようまん中で、日系の青年が弾き語りのフォークソングをやっていました。

日系人や中国系人に向かって、白人たちは「お前たちの国は世界一なんだろう。トットと帰ったらどうなのだ」という。だがおれたちはアメリカ人なのだ。日系人の庭師も中国系のクリーニング屋も、みなアメリカ人なのだ——といった東洋人のプロテストの歌でした。

そしてようやく公園は暗やみに沈み、パークサウスのビルの窓の灯が金屏風のように輝く頃、一段と高く「六段」の調べが鳴り響きました。演奏は鎌田さんという若い日本女性。多勢の外国人が静まりかえった中で聞く六段は、なんだか不思議な思いをさせてくれました。

森の中の道をたどって帰途につくと、木のかげからまぎれもない日本の祭りばやしが聞こえてき、白い提灯がきつねの嫁入りのように闇の中を川をつくって流れていきます。ところが、そばによると、日本の祭りばやしに合わせて踊っているのは、神戸っ子なら神戸祭でご存知の、中国のお獅子です。お嫁入りの花嫁さんは、金らん緞子ではなく純白のバリントワックに装ったフィリピンの花嫁さん。後の方で響く太鼓は極彩色のインドの火焔太鼓でした。

キリンビールのほろ酔いで家に帰って思い出したのは



セントラルパークの動物園でドラムかんをたたいて演奏している人。通る人は25セントを路上の空カンに入れて、音楽に聞きほれています。

「アジアの月祭り」というので、日本人が主催者の一人なのに、集ってきたお客の中に日本人はほとんど見かけず、わずかにお年寄りの日系人らしい人がちらほら。他のアジア人は、それぞれ故国の服装で誇らしげに來ていたのでした。日本人、ことにニューヨークで働く人は、自分を日本人だとは思っても「アジア人」とは思っていないのではないか。これが妙に心にひっかりました。

もう一つのお祭り。これはいま私の住むニュージャージー州ウエスト・ニューヨークの市制七十五周年のお祭りです。人口約四万の小さい市といえば、有力者はみな顔見知り同僚らしく、市当局とシユレジンジャーという男性洋服洋品店の主催で、うちの子供がいま通っている小学校の講堂で「大男性フアッションショ」が開かれるという次第。

男性のタウンウェア、防寒コート、レジャーウェアからタキシードまで、モデルは市会議員（定数四人）全員と助役さんにカトリックの神父さん、新教の牧師さん。

圧倒的なカトリック地域なので最高の人気は神父さんですが、彼がイキナ白のタキシードで舞台の張り出しに現われて大きな拍手が起きたとたん、おごそかに十字を切ったのには満場の拍手でした。

月祭りの翌日は、バーゲンラインという中心商店街の大パレードでした。午後二時からというのに正午ごろから通過路にイスを持ち出し、コーラを飲みながら待つ人でいっぱい。その行列の長さは、人口がわずかな市なのに神戸まつりにも匹敵するくらい。というのは近郷近在同じハドソン郡の他の市長村から「特別参加」のブラスバンド、消防車、愛犬協会などの参加があるからでした。高校のバンドはいうに及ばず、各種在郷軍人会のバンドは平均年齢六十歳と見えました。「聖者の行進」など見事な演奏を聞かせてくれますし、ジュニア・ミス・ニュージャージーや小学生のバトントワラーは汗いっばいかきながらの熱演です。

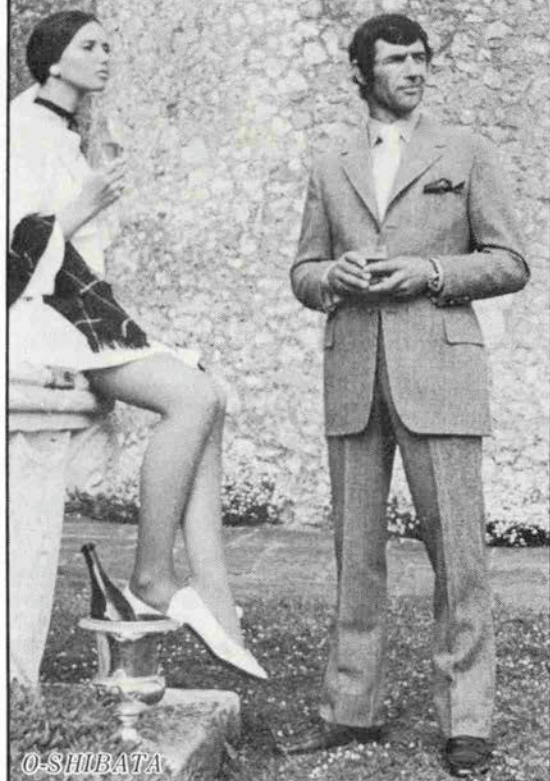
市土木局のダンブカーは運転手とその家族が乗って愛嬌をふりまき、道路清掃の真空掃除車はおやじさんと中学生の息子が妙な顔で行列に参加しているのが、逆に一番ユーモラスでした。

もつとも誇らしげなのが、さきに行ったさまざまの在郷軍人会。といっても、先頭はいつもデブブリ肥って第二次大戦の軍服を着、勲章をいっぱいつけたおじさんとおばさんです。それにフリーメーソン系のクラブが続きます。

ただ、質上げ交渉が難航してついにパレード参加拒否を決めたのが市警のおまわりさんだと新聞に出ていましたが、署長以下夏服からアイロンのあたたか合服に着かえたところで、優雅なポーズで交通整理をやっていたところを見ると、やはりお祭りを楽しんでいたにちがいありません。

これがるほど、日本に輸入されたがいまだになじまない言葉の「コミュニケーション」なのだと思います。

格調高い男の装い



O-SHIBATA

**金 柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南 神戸 341-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

晴れの日  
の  
ウェディングケーキ



ウェディングケーキ ¥ 8,000-より



北欧の銘菓

**ユーハイム・コンフェクト**

■本社・工場・倉庫内店 神戸市灘区船内町1の35 (市立美術館東隣) TEL. 221-1164  
■三宮センター街本店 神戸市三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL. 331-2421  
■さんちか店 神戸市三宮地下スウィーツタウン TEL. 391-3558

☆すみれの花咲くころ

# 花の宝塚六十年昔語り

古林 喜楽 〈広島商科大学学長・元神戸大学学長〉

内海 重典 〈宝塚歌劇団演出家〉

初音 礼子 〈女優〉

松岡 寛一 〈画家〉

★きょうは小林一三さん名づけの楽天地で

内海 今年には小林一三さんが御生誕なさって百歳という年です。来年の四月が宝塚歌劇創設六十周年。小林先生の百歳記念はこの一月にやっただけです。来年は一年中、六十周年記念の催しをやります。

古林 僕は五十周年のお祝いには行ったが、はや十年たちましたか。

内海 六十年のうち、わたしは三十四、五年いることになるからねえ。半分以上になる。

古林 だったらあなたが宝塚に入った時、草笛美子さんはまだいたのかしら。

内海 クッチャンのやめる一年くらい前だったかな。もうブリ・マドンナでね。その頃初音礼子さんは雪組の組長さんだったんですよ。なかなかウルサイ、おもしろい組長さんでね。

初音 先生はね、お稽古場でいろんなことを教えてくれるんですよ。芝居以外にね。(笑)

内海 なにを。ウソ言え。(笑)

★三里の道を腰弁当でテクテク

内海 僕はね、六十年前のことを考えるとね、あの当時小林さんがあんな田舎に、街はずれの温泉の余技として宝塚を作られたということが考えられないですね。

それと「宝塚」という名をおつけになったということ、これはあの辺りに古墳があるということからあの名をつけたということですが、それがそのまま現在の市名になってしまったわけですね。

宝塚歌劇がなければ、だから宝塚という名もなかったわけですね。宝塚という名を残されたということ、それとあんな田舎に作られたということ、今考えると不思議でしょうがないですよ。よく決心なさったと思って。

古林 阪急電車は昔は大阪から宝塚までだけで、阪神間は阪神電車と国鉄しかなかった。

だから僕はね、西宮からテクテク三里の道を日の丸弁当を下げて通ったものです、若き頃は。

初音 おいくつくらいの頃ですか。

古林 大正五、六年の頃かな。天津乙女さんが入って間



内海重典さん

が平場でしたね。小学生の時よ。  
古林 そう坐って見た。椅子席はなかった。

天津乙女さんが十四、五歳の頃でしょうか。

内海 あの人は小学校出ると、すぐその年に東京から連れてこられたんやね。病身で身体が弱かったらしいんですよ。それで小林さんに知り合いがあったらしいんですけど、それで宝塚で預ってやるということとで、身体弱かったから強くしようということとでやって来た。

古林 僕は元来、歌が好きなんですけどね。

天津さんがその頃歌った歌で、いまだに耳に残って覚えている曲があるんですよ。

それをね、さき頃天津さんといっしょになった時、あんなの若い頃の歌で、落つればおなじ谷川の水、という歌覚えていますかと聞いたら「そんなもん、歌いましたかなあ」ともう忘れてしまっていた。(笑)

内海 結局日本の流行歌いうと、宝塚の歌が発祥じゃないか、いう意見もあるんですがね、いわゆる流行歌いうのは……。「モン・パリ」なんか昭和三年ですけど、これはもう日本中に広まった歌やから、今だに歌われていますからね。

古林 そうなったのはレビュウものが入りだしてからでないですか。最初はレビュウがなかった。

内海 そうですね。最初の頃は、一日に五本くらいやってた。初音さんあたりも五本立ての頃に入ってたらしいやうなはずですよ。

初音 そうそう。だからすごい早変わりをしてね。

昔は娘役いうと、もう真っ白に塗ってたね。私が「シンデレラ」で初めて女役をやった時も真っ白。草笛さんがシンデレラ姫をおやりになった時でしたが。私はイジワルの妹役。

もない頃で、まだ十五、六歳でした。

その後上筒井まで阪急ができて、十三まで行けば電車で行けるようになったのですが、学生で電車賃がイタイものだから、その後も西宮北口からテクテク歩いて行ったものです。

内海 神戸線ができてからですか。

古林 できてからもです。(笑) できる前は国鉄の西宮駅から。ちやうど三里です。

だからね、神戸線より前に、阪急電車は宝塚線ができていたわけです。温泉がありましたからね。そのアトラクションとして少女歌劇が作られたのじゃないか。

内海 そうなんですよ。田舎の温泉客誘致のために歌劇を作ろうということだったらしい。

# ★二十銭払うと温泉と歌劇

古林 僕が最初行った頃は、入場料が二十銭やった。二十銭払って入るとね、温泉に入って、まだ少女歌劇はタダで見られた。

初音 私が見に行った時には三十銭やったわ。まだ客席

古林 そうしたら小夜福子さんもいっしょでしたね。

初音 そう、でもあの人はずっと上級生。

古林 すると、初音さんはもう百人一首の名が終わってからになるわけですね。

初音 そうです。私は小学校の時、初めて見に行ってこんな所があるのかとびっくりして、入りたいなと思ったんやけど、家で許してくれなかったものやから女学校へ入ったんです。でもやっぱり途中でやめて宝塚へ行っただんですけど、初瀬音羽子さんが好きやったものやからあの人の名前をいただいたんです。

内海 最初の頃はみんな百人一首から名前を取ってたんですね。今はもうこのことをご存じない人もいますけれど。

古林 雲井浪子、天津乙女、篠原浅茅、高峰妙子、瀧川末子、春日花子、小夜福子、住ノ江岸子、有明月子、霧立のぼる、奈良美也子、雲野かよ子、雪野富士子……ずいぶんありました。

初音 百人一首そのままですね。

わたしらの時は、もう百人一首からは取れなくて、あっちこっちから引っぱり出して名前をつけています。万



古林喜楽さん

葉集からも取っているということになって。

#### ★ロマンスもいっぱい、男性のオアシス

内海 僕はレビューの華かなりし頃、関学にいたんですよ。二年の時学校が上筒井から上ヶ原へ変わったんですが、宝塚のそばになったもので、運動部の連中なんかは練習が済んで五時か六時頃、ちょうど宝塚の生徒の帰る時間をねらって帰ろうか、ってんで「花電車」という言葉があったんですよ。「きょうは花電車で帰ろうか」といううと、六時頃帰ろうということだったんです。(笑)

学校は、中学部の時は見に行くと停学になるんですよ。それで休みの間にこっそり見に行ったりしてたんだけど、そのうち先生の中にひとり、すごいファンの人がいたんですよ。その先生は兄弟で大ファンで、「ヨシ、俺が連れて行ってやろう」。(笑) 監視するのはまた別の先生なんです。(笑)

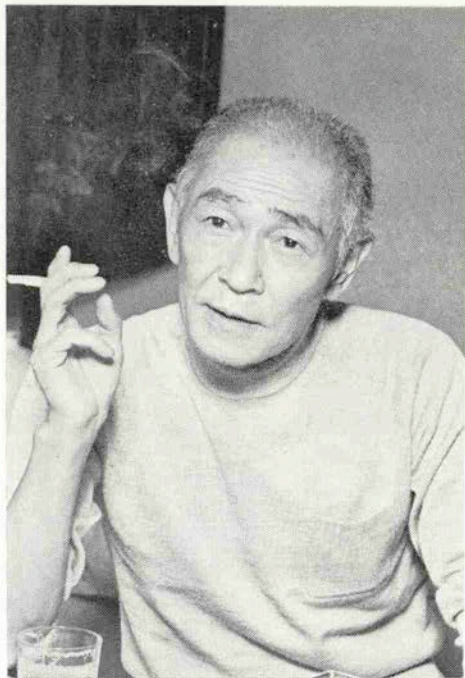
古林 関学というと、さき頃亡くなられた有名な大先生の初恋の彼女が宝塚の人だね。それがうまくまとまらなくて、先生は最後まで独身で通した。相手の宝塚の彼女の方も、今だに独身なんですよ。

初音 そんなこと、全然知らなかったわ。

内海 その頃は、関学と宝塚の間ではいっぱいですよ、結ばれた人。

古林 神戸大学が昔神戸高商の頃はね、上筒井にあって関学と隣りどうだった。ところがどうも関学の学生の方がスマートでモテましたね。その後距離的にも関学の方が近くなりましたから、いろいろ話があったのでしよう。

内海 関学の先生と結婚した人もたくさんありましたね。私も関学じゃなかったら、宝塚に入っていたかどうかかわからないですよ。



松岡寛一さん

ば、腰弁当て三里の道なんか歩けませんよ。  
初音 だからね、わたしの時代、観客席のいちばん前いうと、全部男の人でしたよ。

今は若い女の子ばかりやけど。

内海 今の関西の社長さん、ほとんど宝塚ファンですよ。昔みんな行っていました。今も関経連に宝塚を激励する会がありますからね。

古林 草笛美子さんの話を聞くと、今の大臣連の中にもだいぶんファンがいたそうですな。

初音 そういう古林先生ご自身も、ようお通いになったそうですね。

古林 そう、僕もそのひとりかな。(笑)

初音 内海先生は学生時代から来てはりましたやん。  
内海 学生時代からもうずっとですよ。

中学部を卒業した時には、卒業式の日に卒業証書を持ってみんなでワァーッと行つてね。それからあとはもう毎月ですよ。逃がしたことない。やみつきですね。(笑)

古林 今の若い人には想像もつかないような。僕らの中学時代の頃は娯楽の場所がほとんどなかった。白黒の無声の活動写真ぐらいで、それも三宮と新開地にあるだけ。それくらいであとは何にもない。男女七歳にして席を同じうせずで、女学生に手紙出しただけで停学三カ月というようなことでしたからね。

初音 厳しかったのは宝塚でもおんなじですよ。わたしの時代はそうでした。

古林 正月に親類の女学生が来ても、外では二、三間離れて歩いた。処分問題だったから。

そんな時代だったから、若い女性を目の前で見られる、というようなことは宝塚以外になかったわけですよ。

内海 その宝塚もまた非常に厳しかったわけですがね。

古林 当時のハイティーンの男性にとってはね、宝塚はオアシスのようなものだったわけですね。そうでなければ

★ヤボ？な男がスターの顔を描いて……

内海 松岡先生は絵かきさんだったんですよ。それで一年ちよつと宝塚にいてはつたわけですか。なつかしいな。

松岡 戦争に行つてしまいましたんでね。

内海 どないしてはるんやろ、と時々あなたの名前出てきますよ。

松岡 内海さんが入りはつたところでしたね。

内海 わたしが十四年に入つたでしょ。松岡さんは十四年の中頃すぎやったかしら。

松岡 ほんの二、三カ月の違いやったから。

内海 その頃出版部が「歌劇雑誌」という本を出してまして、その表紙がずつと写真だったわけですよ。ところがそれじゃおもしろくない、ということになって、その表紙を油絵で描いていただくということで、確か入つて来られたんですね。

松岡 最初小磯良平先生に頼みに行かれたそうですね。

わたしは小磯先生の紹介で入ったわけですよ。

内海 そうそう、それで表紙のスターの絵ばかり描いてらしたんですが、いい絵でしたよ。「歌劇雑誌」の雰囲気バツと変わったもの。

一年ちょっと宝塚で絵を描いてらしたんですな。まじめないいい青年でしたよ。

松岡 僕は仕事以外にはわりに縁がなくて、スターの方以外はまるでわからない方でしたね。勤めていて表紙とかカットの絵が済んだらあとは仕事がないものですか。ちよこちよこ劇場に入っって見ていましたがね、お金払って通ったことというのはないんですよ。

僕は、ヤボな方でした。(笑)

お昼の食事時でも、ちよつと早めに食堂へ行っって食べると練習の終わった女の子たちがワァーッと降りてきてね、あわてて食器持っって移動したものです。

内海 その頃宝塚はコーヒ―が五銭でね、まだそれにモナカがついてましたんや。

★男役は室内でもシルクハットをつけたまま



初音礼子さん

古林 僕らのハイティーンの頃には学生は皆よく通った

ものです。私はその後ちよつとごぶさたしていましたが、十年くらい前ですか、どうしたわけか、春日野八千代さんと対談するというプログラムをNHKが組んだんですよ。春日野さんが「不死鳥の翼燃ゆとも」に出演なさった時なんです。見ないことには話にならないので、その時久しぶりに宝塚を見に行きました。

初音 先生のハイティーンの頃とは、ずいぶん変わってましたでしょう。

内海 レビュをやっているようになってから、宝塚はすっかり変わりましたね。

昔は、浅草オペラみたいなものを女性ばかりでやってら、ちよつと違ったものにならないかというんで小林さんが始めはったんやけど、童話劇から始まってだんだん大人のものになり、それが「モン・パリ」なんかのレビュでまたスタイルがすっかり変わってしまったんですね。

その頃は男役をやる人も髪を切ったらいけなかったんです。だからいつもシルクハットをかぶって、部屋の中の芝居もシルクハットをかぶったままやっていたんですよ。髪が長いままだから、帽子を脱ぐわけにいかなくて。

初音 いちばん最初に髪を切ったのは小夜福子さん、それから神代錦さん、わたしが三番目ですわ。

髪を毛を切ったらおとうさんにエライ怒られてね、先生が切った方がエエ、言わはるんや言うても先生はそんなこと言わんはずや(笑)言うて。

内海 それから後は部屋の中の芝居に帽子を脱げるようになったんですわ。

古林 昔は少女歌劇という名の通りの可愛いらしさが印象的でしたね。ところが先頃久しぶりに「不死鳥の翼燃ゆとも」を見て

印象的であったのはね、昔と比べて舞台衣裳と女性の身体がころっと変わって美事になったことです。

しかしとにかく、昔日本国中の若き男性を魅了し、今でも現役大臣が神戸へ出張してきた時にはこっそり昔のブリ・マドンナの顔を見に来るといふような、外国では例のない伝統、今でも夜も日もあけやらぬ盲目的な女性ファンの多いこと……日本人にもオペラというものがだいぶんわかってきたのに、いまだに連日超満員で、日本

の名所になっているということはたいしたものですよ。ただ歌劇という言葉で、オペラかと思うと誤解を招くでしょうがね。たとえばテノールなんかは女性では無理でしょうからね。

しかし先日来日した朝鮮のマンスデ芸術団がオペラの新しいジャンルを見せてくれたのにヒントを得る、ということも考えられるのではないのでしょうか。

日本の歌舞伎では女役を男優が演じる、宝塚では男役を女優が演じる。こんなのは欧米にはない日本独特のものですからね。マンスデは、欧米ではオペラにならなかったものをオペラにした。宝塚は宝塚で日本独特のものを創造していく。オペラにもいろいろさまざまなものがあるというのもおもしろい。宝塚にはおおいに頑張ってもらいたいですね。

内海 宝塚のいき方は純粹オペラとはちょっと違うんですね。女だけでやるということと、オペラのマネやいのやなく、むしろ昭和十二、三年以後はオペレッタに近いんですよね。

# ★宝塚調を現代にも生かして

内海 戦後私はアメリカへ行つて、ブロードウェイでミュージカルを見てきたんです。「南太平洋」なんか見たんですが、生のミュージカルを見たのは日本では私がいちばん初めてだったということです。

アメリカのミュージカル・プレイいうものがいかにすばらしいものかということを知っていたんです。ところがブロードウェイの劇場に入つて、実際には私は少しもびっくりしなかった。そこで見たのは、すでに昭和三、四年頃から宝塚がやっていた形式だったんで



宝塚時代の初音礼子さん(左)と室町美子さん

☆新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

〈11月号予告〉

☆グラビア「女の四季」野川 由美子

〃 「万葉記」 ⑧ 犬養 孝

〃 「And His Ladies」

阿部牧郎

〃 「関西の人間国宝」

片岡仁左衛門、黒田辰秋、

深見重助他

〃 「私の散歩道」村山リュウ

吉田留三郎、藤井正三

☆特集 企業情報（食品産業）

〃 美術随想

☆タウン企画 元町1番街

周防町界限

☆連載対談 ③ 山田無文、富士正晴

☆商売の最前線 「進々堂製パン㈱」

☆激動のアラブに行く⑫

クウェート 林 辰彦

☆大阪芸術大学の可能性をさぐる(Ⅳ)

〈建築〉

☆「織田作之助伝」 ⑫ 大谷晃一

☆「競馬酔狂連」 ⑨ 新橋遊吉

☆「大阪物語」 ③ 石濱恒夫

☆「夕ぐれに苺を植えて」②足立巻一

☆タヒチレポート 編集部

月刊 オール関西編集部

大阪市北区梅ヶ枝80 梅新東ビル7F

TEL06-364-2434~7 (代)

すよ。アメリカへ行っても全然びっくりしなかった。

「南太平洋」以前の「オクラホマ」とか「回転木馬」これは戦争中のものなのですが、こういうのはまだ半分オペラといえますね。オペラに近いオペレッタ。

それが「南太平洋」あたりからは芝居本位のミュージカルになってきたわけなんですけどね。

アメリカのを見て帰ってからは、アメリカにも決して負けないと安心してやれるようになりましたね。宝塚は決して遅れていなかった。

この間あるアメリカ人が来ましてね、宝塚大劇場の大きさというものを非常にほめたんです。大劇場がこれ以上大きくなれば親近感いふものがない、小さすぎる。とこんどはアラが見える、だから大きくもなく、小さくもなく最高の寸法だというわけなんです。

これはその時初めて聞いた意見ですが、宝塚の今のような魅力も、大きさが一役買っていたんやないかと思っただけです。

初音 はあ、そうかもしれないですね。

内海 宝塚みたいな形式のものが世界にないだけに、大切にしないといけないと思っっていますね。

初音 私たちの頃はね、大劇場をやると次に中劇場、そ

の次にはまた小劇場に出てというふうで、だから今の私たちより、私たちの頃の方が忙しかったように思っていますね。

内海 宝塚でも最近の若い作者は、現在の若い人たちの好みからショーでもロックを多くしたり、シニールな舞台を作ったりして、感覚的に今までの宝塚調を打破しようとしてやってくれている。

僕もそれはそれなりに必要なことだと思うけれど、年中そればかりになってしまおうと宝塚の存在価値がなくなってしまうと思う。

世間一般にあるのと同じものになってしまっ、あきられてしまうと思っていますね。

現在まで育てられてきた宝塚独自のものを、現在の人が見ても古さを感じないものにしていきたい、こう思います。

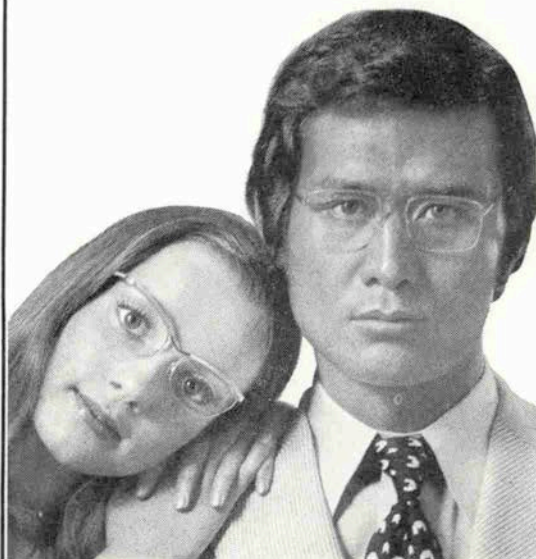
それをあえて現代調に変えてしまい、くずしてしまいたくないというのが我々の意見ですね。

〈於・竹葉亭〉

# MAKE UP WITH ROYAL

秋から冬へ

ディオール、カルダン、サンローラン  
のセルロイド枠にて  
舶来、国産のオール・メタル・フレーム  
よりよく装って下さい



 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちタウン ☎(391)1874-5

元町店は毎水曜日がお休みになりました  
三宮店は第3水曜日が休みです



## 伝統と風格

ロマノフ王朝のかおりを今にとどめ  
心こめてつくりあげた手づくりの味  
そのひとつぶ、ひとつぶの個性豊かな味と香りは  
あなたに優雅なひとときをお約束します。

CHOCOLATE&CANDY

ゴンチャロフ  
*Goncharoff*



タカラヅカ出身

# スター アンケート

(回答到着順)



新珠三千代

- (1) ふるさと
- (2) ジャワの踊り子、蝶々さん三代記、ワルジャワの恋の物語等々
- (3) 多すぎます。
- (4) 清く正しく美しく



月丘 夢路

- (1) 親元を離れ、社会(団体生活)に足を踏入れ、芸能界への基礎の第一歩を歩き始め夢多い少女時代を無我夢中でぶっつけました。
- (2) “ぶんやん歌”初めて春日野八千代さんの相手役に抜擢されました。

“かぐや姫”小夜福子さんに代ってかぐや姫に扮しました。  
“コローア物語”ミーチヨ姫に扮し、これが最後の舞台でした。

- (1) あなたにとって、今、宝塚時代はどんな時であったと思われるですか？
- (2) 宝塚時代に印象に残るプログラム・主題歌、相手役をお聞かせ下さい。
- (3) 宝塚時代の印象に残るエピソードをお聞かせ下さい。
- (4) これからの宝塚はどうあってほしいと思われますか？



- (3) 上級生に、にらまれたりいじめられたりした時、同期生の越路吹雪さんが、うちら団結すれば怖いことなんかないわ、団結やで！と音頭を取り可愛い気炎を上げました。
- (4) 適当に厳しく、適当に甘く、適当にプロ意識を持って、観客を楽ませて下さい。



淀 かほる

- (1) 戦後の日本の発展と共に、宝塚も戦前の黄金時代に劣らない隆盛期を作ったと思われる時期に私の青春時代を生きた事は本当に幸せでした。宝塚は私にとって一生忘れられないところですよ。
- (2) あまり沢山で書ききれません。白井先生、高木先生、内海先生の作品に出演しておりました。それら全部の作品と主題歌です。相手役は色々の方といたしました。春日野八千代さんに一番お世話になりました。

- (3) 私は初舞台からどういうわけか転びます。ロケット(ラインダンス)で私が転ぶと大変。まわりの友達は大迷惑。それが今でも転びます。
- (4) 宝塚でしか出来ない素晴らしい舞台をこれからも観せていただきます。



葦原 邦子

- (1) キザに聞こえるかも知れませんが、まさに、輝ける青春時代。私の人生の終る時まで、その思い出は、いつも大きな心の支えとなるでしょう。
- (2) レビュー時代の波にのった幸運な舞台生活、その10年間に一つとして嫌いなものはありませんでした。しかし特に言えば、(サルタンバンク、山彦の唄)(アルルの女)(憂愁夫人、ロンドデリー)(マリオネット、クリスチヌ)(ラ・ロマンス)(忘れじの歌、アンニーローリー)。桜ひさ子、大空ひろみ、久美京子。

- (3) 当時、世界的なブリマドンナと言われた三浦環女史に、あなたの歌はことば、歌詞がはっきりしていて大変いい、日本のオペラ歌手にも聞かせてやりたいと言われたこと。やはり世界的なバリトン歌手、シャリヤビン氏が来日したりリサイタルに、楽屋でシャリヤビンにキスして貰って一番前の席で、あこがれのド

ンキボーテやヴォルガの舟歌を聞いたこと。

(4) 若さこそ宝塚のシンボル。そして他の演劇界には無い、夢のある、美しい、豪華絢爛たる舞台を大切にしたい。時代遅れという人もあるとは思いますが、清く正しく美しくという昔ながらの宝塚のモットーは、たとえ表面にあらわれるところだけでも見せてほしい。たとえ楽屋裏はどうあろうとも。このイミわかって下さい。



加茂さくら

(1) (小学校、中学、高校)の学生時代の次の素晴らしい第二の時代だったと思います。これからの第三の時代そして第四の時代の中では一番幸福な。

(2) 微笑の国、皇帝と少女、花のオランダ坂などやらせて頂いて今だに忘れられません。主題歌はうるわしのファナ、南の哀愁、私は桃の花が好きetc. お相手役はその都度ステキな男役の方と組ませて頂いたので、どの方にもスバラシイ思い出が沢山あります。

(3) 宝塚の楽屋 (特に兵庫県の本地の方は特に厳しく) まだ小林一三先生が生きておられました頃、守衛さんに「そこのおじさん男の人はいませんか」と断わられたとか聞いたこともありました。楽屋の中は、たとえ演出の

先生でもお入りになれません。ある時、皆がとても忙しく開演の準備をしているところ、誰も舞台におりていかなかったので、やむなく振り付けの先生が皆のいる楽屋迄上ってこられて、ダメ出しをしようにとなさったら、皆が一斉に「キャー出てっ」とか大変な騒ぎになり、その先生もその場は注意しに来たのに、とすごい剣幕でお帰りにになりましたが、そこはやはり女性ばかりの園、本当は生徒の方があやまらなければいけないのに先生の方からお菓子の差し入れが届いて皆で頂いたことがありました。

(4) 宝塚らしいもの、宝塚だけは必ず夢がかなえられるような作品を常に演っているという印象を男の方にも女の方にもうえつけて、夢を満たしてくれるもの、それが宝塚というようになって欲しい。宝塚の生徒さんだけは、すべて芸にせよ私生活にせよ違うなといわれるような人ばかりになって欲しいと思います。



扇 千景

(1) 現在も女優として働ける基礎を教えられ、中村扇雀という夫にもめぐり逢えた私の人生の最高に重要な時代でした。

(2) 「夜霧の女」 春日野八千代様  
(3) 初舞台の時、あわててスリッパのままロケットに出て、舞台の

真中で気がつきその場でぬいじちゃったので、ダンスが済んで全員入ったあと舞台の真中に一足、スリッパが残り大失敗しました。

(4) どんなことがあっても夢の世界であって欲しいと思います。



小夜 福子

(1) 正に、ベル・エポックです。天下泰平、遊び半分で愛していたと思います。

(2) なつかしい思い出は、レビュイが生れる前の四本立、五本立の演し物だった頃、演劇の古典ものの歌劇化したもの。故郷正旗先生の「青春」東郷先生の「マダノリア」etc. 相手役では、雲野かよ子さん、藤花ひさみさん。

(3) 今は亡き佐佐美代子と仲良し時代、寄宿舎にいて、夏、ホテル狩りに出掛け、うるしの木にかぶれて顔がひどくはれ上がり、白い葉をぬつてお化けみたいになったこと。

舞台でゲラゲラ良く笑って久松先生に呼びつけられ叱られて楽屋の化粧台の引立しの中に顔をうつ込んでよく泣いた。

(4) 時流に流されないで、どこ迄もユニークな宝塚でなければできない演し物、古いと言われても良いみっちりキメの細かい品の良いものが一つ位あったも良い。

# Sunset in Paris

黄金色の夕日は  
街の並木をくぐって  
まぶしく映える……  
それは さながら  
モンマルトルのトロゼ通り——  
ドレシーなサングラスが  
あなたを華麗に演出します

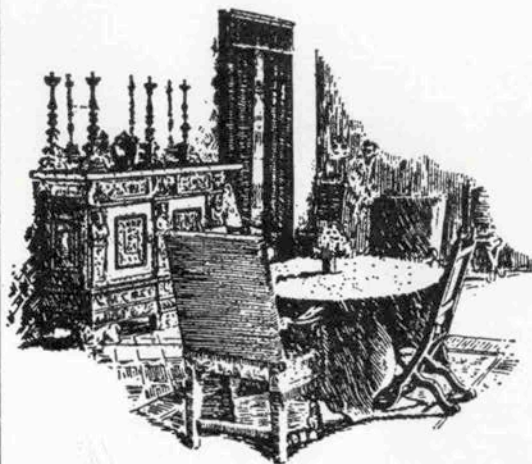


メガネの

## モリカワ

大阪店・**モリカワ** 4F 神戸店・三宮 **さんぷら** 1F  
TEL 06(361)7040 TEL 078(391)0383

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

## 永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737  
(代表)  
東京店・東急百貨店(日本橋店内6階 TEL 03(211)0511  
(本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180  
工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35  
神戸木工センター TEL (078)706-5913